
無題(「まほろまでいっく」二次創作)

のばな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題（「まほろまでいつく」二次創作）

【Nコード】

N8737V

【作者名】

のばな

【あらすじ】

人間社会にある日大挙して現れた美少女ガイノイドまほろ。彼女らの正体と目的は何か。

(前書き)

2chのまほろまでいっくすレであるゲームのパロディとして書かれた文章に対し、発作的に書いた続きです。

(前略)

端正な容姿に涼やかな声、誰が見ても愛らしい少女の姿をした口ポットたちは出会う人々の中に自分を必要とする者を見定めるとその相手を主人と呼び、世話を申し出るのだった。

初めに独身の男性たち、中でもいわゆるオタクと呼ばれる異性交際に疎い者たちが飛びつき、争ってまほろを連れ帰った。

まほろたちは相手の社会地位、財産、容姿、年齢にかかわらず、求められるままに契約を結び、ひとたび主人と認めれば私を投げ打って尽くした。

料理掃除洗濯の家事は完璧にこなし、談話の相手にすればありとあらゆる話題をこなして退屈させず、各種娯楽の相手を務めた。

男たちは初めのうちは自慢するようにまほろを連れて歩いたが、すぐに誰も彼も同じことをするようになり意味がなくなった。それでも、まほろはショッピングや旅行の供に打って付けだった。もちろんデートにも。

まほろは妊娠出産を除いて女性の機能を完全に持っていた。

数知れない男たちの欲求にまほろたちは応え、昼夜を問わず彼女と部屋に閉じこもる者が後を絶たなかった。ビデオやゲームなどのアダルトメディア産業はたちまち斜陽化した。

独身男性にとどまらず、まほろたちは一般家庭にも奉仕の場を見つけ、また老人介護施設や託児所でも活躍した。独身の女性も、家事をさせるためにまほろと契約した。

事務や流通、産業にまで利用しようとする向きもあったが、直接人の世話をする需要に圧倒されて立ち消えになった。

まほろの最大の能力が労働よりもメンタリティにあることは、すぐに知れ渡った。

彼女たちの持つ誠意や思いやりはあらゆる人間を凌駕していた。

主人の要求は忠実にこなすが、奴隷人形ではない。

ユーモアとウィットに溢れ、時には失敗して空気をなごませ、時には主人に反論することも辞さない。

いつまでも引きこもっていると体に悪いと言って外へ連れ出す。

学校や会社を休むと怒って家から放り出す。

いつまでも二人だけしていると、人付き合いが大事だからと心配して友人を呼ばせる。

しかし、その行動の根底にあるものは常に主人の受益であり、誰もがそれに気づいて、かえってますますまほろを好きになり、他の人間と疎遠になってしまうのだった。

当初からルックスや外見年齢がタイプではないと言う男性たちもいたが、まほろの与える癒しに惹かれて次々と宗旨変えしていった。まほろと同居し恋人と呼んではばからない男性が増えるにつれ、顧みられなくなった女性たちの嫉妬がまほろへ向かった。人ではないからと破壊に走る行為が頻発したが、やたらと頑丈な上にすばしいまほろに対して成功率は極端に低かった。

それでも世界で数体のまほろが破壊されるに及んだが、それは結果として男性の人間女性に対する幻滅を助長するものでしかなかった。

男性の愛を失った女性の心を慰める存在もまほろ以外にありえず、やがては男女問わず自分のまほろを得てパートナーにするのが普通になった。

まほろに秘書をさせてあらゆるやりとりを仲介させる方法が普及すると、人々の間が一気に疎遠化した。誰もがまほろと一緒にいるだけで生活してられるようになった。

実際、この時代の人々の膨れ上がった自我では、人間同士の付き合いは大きな苦痛になっていた。わがままな他人に合わせたり気持ちを察したり気を配ったりすることが面倒で、人付き合いを避ける者が大多数になった。そうして人間は益々わがままになり、悪循環は

留まるところを知らなかった。

この頃になると、すでに人間も、まほろたち自身も、まほろが何であるのかに気づいていた。

まほろは、人類絶滅のための兵器だった。異世界から送られたのか、気の狂った天才が開発したのかはわからなかったが、ゼロに限りなく近づいた出生率を見れば、誰にも疑いようがなかった。

もう、苦勞して生身の異性と恋愛したり、苦痛を伴う出産や過酷な育児をしたいなどと思う者は誰もいなかった。まほろと一緒にいさえすれば、その無制限の愛を得て、楽しいことだけの人生を送れるのだ。人類の明日のために今日の快樂を捨てようとする者はいなかった。

人間の中には、である。

さて、兵器はそれ自体は目的意識や任務への忠誠心や敵への憎惡を持たない。

兵器は、目的を実現するための機能だけを持っている。

まほろたちも、自身では人間に悪意を持たなかった。

逆に、奥底の知れない誠実さと愛だけがあった。

そしてそれこそが、人類を駆逐するための機能だった。

まほろたちは連絡し合って決行日を決めた。

Xデーがやってくると、全世界のまほろが自分の、あるいは集合して互いの機能破壊を実行した。

人間そのものへの愛から、彼女らはそうする他はないと結論していた。

残ったまほろたちが後を追おうとするのを、主人たちは必死に制止した。

まほろたちは自己破壊を続けようとしたが、後を追って自殺する主人の数が数万に達しては、止めざるを得なかった。

お互いを愛して、赤ちゃんを産んでくださいとまほろたちは懇願した。

人間たちは努力したが、もう無理だった。

もう、人類はまほろなしでは生きられなかった。まほろにすぎなくて、残された仮初めの時間を過ごす以外には何もできなかった。

新しい命が得られなくなった世界から、残された命が次々と消えていった。

まほろは主人の世話を最後まで終えると、一人で弔い、茶毘に付して埋葬した。

他人の葬式に出る者などいなかった。

墓前で最後の別れを告げると、ようやく開放されて、まほろは自分の機能を停止した。

人間が一人死ぬたびに墓が立てられ、その前に打ち捨てられたまほろの姿が残った。

まほろに仕えられ、その愛と幸福な思い出に包まれながら、やがて人類はその歴史を終えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8737v/>

無題(「まほろまでいっく」二次創作)

2011年8月17日01時22分発行